

園だより 夏休み

主はわたしを草原の原に休ませ

憩いの水のほとりに伴い 魂を生き返らせてくださる。

詩篇 23 篇 2～3 節

暑い暑い毎日が続いた7月でした。日々、子どもたちの安全を考え暑さ対策を行いながら、それでも子どもたちの活動の場の制限はできる限りしないで過ごすことを願いました。今学期も子どもたちの遊びに対する想い「センス・オブ・ワンダー」を大切に過ごした日々となりましたこと感謝でした。

6月から沢山楽しんだプール遊び。プール全体を監視するため、2階からそれぞれの学年のプール遊びを見守っていると、学年ごとの遊び方の違いに、幼児期の1年ごとの成長の大きさを改めて感じました。年少さんの大きなプールヘドキドキしながら参加していく様子や、大きなプールに入れる子どもたちの人数が回を重ねるごとに少しずつ増えていく様子に、幼稚園で過ごす毎日の経験を通して、生活の面で自立していていること、初めての経験に自ら踏み出し、少しずつ広い世界に身を置き、様々なことに自ら楽しんでいく心の動きが見て取れました。年中さんたちはもう慣れたもの！余裕の様子でプール遊びに興じていました。個々の様子を見ても、昨年度はドキドキの様子だった子どもたちが、水しぶきを上げて楽しんでいる様子に、自信とたくましさを感じました。確かに日常生活の中でも一つひとつに自分の力で！との意気込みが感じられ、自らが思い描くことを自身で工夫し表現し楽しむことに満足感を感じている姿がありました。年長さんたちは、個々に泳ぐことを楽しんでいる姿もあれば、ロングビート板などの道具を使いお友だちと協力して遊ぶ姿がありました。「プール」というひとつの環境での遊びの展開にもそれぞれの年齢毎の子どもたちの成長は確かにありました。

このように集団としての成長が豊かにあった子どもたちですが、それと同時に幼稚園の日々でもっとも大切に思い過している一人ひとりの視点からの成長の過程も様々なみられました。その成長は一律ではありません。それぞれにペースも違います。当然ですが千差万別です。子どもたちは個々にも伸びやかな育みのときを過ごしましたが、自分の想いが揺れ動き、心がざわざわとしている様子、それに伴う行動もありました。千差万別な心もち、想いが落ち着かない一見負のときと捉えられがちな心の動きのときとその様子、実はその様なときこそが深く想いを巡らす大切なときであり、心の育みが為されるときでありました。さまざまな想い、子どもたちの様子を受け止め過ごした一学期の日々、すべてが成長に繋がる恵みのときとなっていました。

幼稚園の想いと共に1学期もお支えくださいました保護者の皆様のご理解とご協力に心から感謝申し上げます。猛暑の夏休み、皆様の健康が守られますことをお祈りいたします。くれぐれもご自愛ください。

園長 駿河 幸子